



すぎなみ

教育報

第167号
平成14年12月10日
発行 杉並区教育委員会
杉並区阿佐谷南1-15-1
☎ 3312-2111 FAX 5307-0692
区公式ホームページ
<http://www.city.suginami.tokyo.jp/>



「学ぶ意欲」を引き出します



小・中学校では、子どもたち一人一人の「学びたい！」気持ちをさらに引き出す学習が実施されています。2学期に学校で行われた特徴的な学習活動をご紹介します。

民間人講師による授業



民間人講師による授業は、中学校4校（高南・天沼・神明・和田）の数学を対象に、2学期中に各校3～4時間実施しました。

神明中学校では、2年生の一次関数の復習を授業で行いました。講師は、問題を解く上での優先順位を明確にする、単元のポイントをしっかり生徒に伝えるなどの工夫を凝らした授業を展開していきました。

生徒たちに授業の感想を聞いてみたところ、「よくわかった」という声が聞かれました。参観していた先生たちも、「授業に活用したい」ととても意欲的で、今後の授業に十分活かされる内容となりました。



小学校にフレッシュ補助教員



9月から、先生とともに教員免許を持った若さあふれる補助教員が授業を行うフレッシュ補助教員制度がスタートしました。

現在、19人のフレッシュ補助教員が小学校に導入されています。

和田小学校のフレッシュ補助教員の中村理明先生は、毎日1～6年生のティームティーチングの授業に入り、子どもたちとふれあっています。

この日は6年生の社会科の授業で、近松門左衛門について学習しました。担任の先生との掛け合いで「曾根崎心中」の寸劇を演じたり、ちょっとした質問に答えたりと中村先生は大活躍です。

休み時間には中村先生といっしょに、サッカーやバスケットボールをするのを子どもたちは楽しみにしています。

朝の15分学習



現在、小・中学校では始業前や放課後を使った学習が盛んに行われています。

若杉小学校では「若杉タイム」と名付け、朝の15分学習を展開しています。内容は、漢字の練習や100マス計算、読書など基礎基本の学習が中心となっています。

「若杉タイム」で行う100マス計算は、計算力の確立とともに、練習すればできるようになるんだという子どもたちの自信を育むことを目的とした取り組みです。

「100マス計算をやってから、かけ算が好きになったよ！」100マス計算を終えた4年生の笑顔が印象的でした。

平成15年度 南伊豆健康学園入園児童募集

健康学園は、南伊豆の豊かな自然の中で、健康の回復と体力の増進を図りながら、区内の小学校と同じ内容の勉強をする全寮制の学園です。

また、磯遊びや山登りなど、都会では得られない自然とかわる体験的な活動を取り入れています。



- 【入園期間】 平成15年4月から1年間
 - 【入園対象】 小学3～6年生で、肥満、ぜん息、偏食、虚弱の児童
 - 【費用】 月額約28,000円（食費・雑費）
 - 【入園申込】 平成15年2月5日（水）までに各小学校へ
平成15年1月25日（土）、26日（日）に
現地見学会を行います。
- 問い合わせは：学務課就学奨励係

紹介します

東原中3年生ヴァイオリンを使った選択音楽の授業

生徒たちに本物の洋楽器に触れてほしいという願いから先生たちは、校内外の伝をたどり、なんとか生徒一人ひとりのヴァイオリンを集めました。あとは専門家と一緒にしっかりした技術を指導できればと思案していたとき・・・学校教育コーディネーターの橋渡しで、元東京フィルハーモニー交響楽団の演奏家に出会うことができました。

「子どもたちに音楽を創る楽しさを伝えたいんです。」音楽科の前山先生の思いは、生徒たちに伝わり、奏でる音に表現されました。

コーディネーターは、学校が求める人材と学校を応援する人々を繋いでいきます。



学校教育コーディネーター 大沼

6月から学校と学校を支援している4人の学校教育コーディネーターを盛り上げています。コーディネーター部をご紹介します。

今年度の学校教育コーディネーターは、富士見丘小、天沼中です。推進校は東原中、東原中です。

調整します

杉森中学校公開講座

生徒たちに様々な体験を提供している公開講座。多様な要望に応えるために、今年は一部講座の講師依頼、打ち合わせの設定、企画の立案などを学校教育コーディネーターが行いました。

「コーディネーターが間に入ってくれたことで、円滑な打ち合わせができました。」講師として在住外国人を紹介してくれた文化・交流協会の方は講座終了後、こう話してくれました。

学校に協力してくれる人たちとのコミュニケーションも、コーディネーターの役割の一つです。



学校希望制度の申請結果

について

区では魅力ある教育活動の実現と開かれた学校づくりをめざして、区立の小・中学校の新1年生を対象に、指定通学区域を弾力化し、保護者や子どもが学校を希望できる「学校希望制度」を昨年度から実施しています。

今年度は、9月13日から10月15日の期間で希望する学校の申請を受け付けました。締切り後の申請状況は以下のとおりです。

[希望申請結果について]

1 希望申請者数

		住民登録人口	希望申請者数	希望者の割合
小学校44校	今年度	3,127人	495人	15.8%
	昨年度	3,183人	461人	14.5%
中学校23校	今年度	3,209人	518人	15.7%
	昨年度	3,197人	486人	15.2%

2 抽せんを行った学校

学校名	申請者数 希望申請 (入)	受入人数	他校への 希望申請 (出)	当せん者数	公開 抽せん日
浜田山小学校	66人	30人	2人	32人	10月24日
高井戸中学校	68人	30人	6人	36人	10月24日

[国立・私立の届出]

国立・私立学校へ新入学される方は、届出が必要です。手続きは、入学予定校が発行した入学許可書又は承諾書を持参のうえ、学事係、区民事務所・分室・荻窪サービスコーナーで、早めに国立私立入学届をお出しください。郵送での届出もできます。届出書は区公式ホームページの申請書等配信サービス（子供・教育 学校）をご利用ください。

問い合わせ先：学務課学事係



科学館公開講座

小柴昌俊 博士

ノーベル物理学賞受賞記念特別講演会

ノーベル物理学賞を受賞された小柴昌俊博士が、高柳雄一教授（文部科学省高エネルギー加速器研究機構）といっしょに科学館にて講演していただきます。受賞に至るまでの研究のお話や喜びの言葉などを語っていただく予定です。

日時 平成15年1月25日（土） 午後2時～4時
場所 科学館講堂（住所 清水3-3-13）

定員は220名です。当日は先着順とさせていただきます。

問い合わせ先：科学館（電話 3396-4391）

写真 東京大学提供

夏休みを中心に、「Kids ISO14000s」のプログラムにより杉並区の4～6年生約2,200人が家庭の省エネ・省資源に取り組みました。

その結果、初級編で、四宮小学校6年生川崎基資さんが国際認定書授与式において、特別賞の東京都知事賞を受賞しました。

企画します

学校発未来行リレーライブ

子どもたちに未来のゆめを・・・学校を舞台にしたリレーライブは、城西・西南・杉並ロータリークラブの協力を得て実現しました。



テーマは国際貢献、スポーツ、芸術、科学の4つ。

「スポーツ」では元プロサッカー選手のマリニョさんをお招きしました。お話も早く、フットサル大会に突入。大喜びの子どもたちはプレーを通じ、マリニョさんとの交流もあり、大いに盛り上がったイベントとなりました。

コーディネーター活躍!

くださる人々との掛け橋となり、活躍しコーディネーター。小・中学校を舞台に、杉並区のコーディネーターが関わり、行われた活動の一

一拠点校は、杉並第一小、高井戸第三小、杉並第九小、若杉小、桃井第二小、杉森中、

提案します

富士見丘小学校で「わくわく!科学実験教室」開催へ

学校教育コーディネーターは教育活動に関する情報を集め、学校への情報提供を行っています。

「わくわく!科学実験教室」(アジレント・テクノロジー(株)と(財)さわやか福祉財団の協働によるプログラム)の情報を得たコーディネーターは、八王子市内の小学校の授業を参観。その様子をレポートにまとめ学校に提案した結果、このプログラムを取り入れた授業が実現しました。



教育委員会のISO 14001 認証取得に向けて⑥

杉並区の教育機関は、来年2月にISO14001の認証取得をめざしています。それに向けての取り組みとして、11月には学校や図書館をはじめとした教育施設の内部環境監査が実施されました。

認証取得審査機関による予備審査を経て、12、1月には登録審査(本審査)となります。登録審査は、教育機関数ヶ所が対象となり、書類等の審査のほか職員への口頭での意識調査も行われます。

グリーン購入の促進、施設での環境方針ポスターの掲示、紙の裏面利用や封筒の再利用は行われているかなど、日常的な取り組みが主に審査されるので、施設内での周知徹底が認証取得のポイントとなります。



内部環境監査の様子。理科室の薬品を点検しています。

教育委員からの発信

ロジック思考

原因と結果

コンピューターが計算以外に使われるようになった三十年ぐらい前のこと、私が働いていたテレビ局でどういふ番組がヒットするかを電脳診断させた。すると、無名の歌手が多数出る歌謡ショーがいいという結果が出た。それが間違いであることは誰の目にも明らかだった。実は当時、美空ひばりクラスの大歌手が登場する時はレコード会社が抱き合せて駆け出しを売り込む慣習があった。つまり、中程度のタレントを並べるよりも大物一人の方が視聴率を稼げるということだったのだ。

少々は飛ぶが、ソ連のブレジネフ書記長が健康を害した一九八〇年代の初めころ、後継者論議が盛んになった。私はKGB長官のアンドロポフが書記局に呼び戻されたことから最も有力だと考えていたが、西側の海千山千のクレムリンロジストの説では、軍人・外交官・保安関係者は共産党のトップにはなれないとのことだった。だがこれは歴史書記長の経歴から割り出した結果であって、不文律でも何でもないのでないかと思っ、私はアンドロポフを主張し続けて的中した。通説はしばしば大事なことを見逃している。

誤報と訂正

現代ではマスコミが報じることが真実であり、報道されない事件は起こらなかったのと同じである。私は誤報に寛大である。絶対に誤報をしないでおこうとしたら旧聞になってしまう。その代わりに、誤報とわかつたら、本来同じ紙面や時間に元の記事と同じ量で、事情を明らかにして訂正すべきであろう。先進国の一流紙は必ず第一面に、「Xページ、Xページに訂正あり」と明示しているが、わが大新聞はなかなか素直に誤報と認めず、しかもどこかの片隅に小さな活字で掲載する。

もつと悪いのが不正確な要約や意図的な省略である。外国の要人の演説を内外の新聞で対比するとニュアンスが異なることが多い。またかつて石原都知事が「不法入国した第三国人」と言ったのを、共同通信が「不法入国した」の部分を取って配信した。さらに理解に苦しむのは、読者が当然関心を持つと思

「ご意見をお待ちしています」

「教育委員からの発信」をお読みになった方からのご意見を募集いたします。ご意見は郵送、または区のホームページで受け付けます。送付先 〒166 8570 杉並区阿佐谷南1-15-1

ホームページ <http://www.city.suginami.tokyo.jp/> 杉並区教育委員会事務局庶務課 「教育委員への意見」あて

教育委員

大藏 雄之助



われるニュースを伏せることである。朝日新聞は社民党土井党首の北朝鮮拉致に関する謝罪とは言い難い弁明を紙面にしなかつたし、松木薫さんの「遺骨」別人問題も取り上げなかつた。(各紙は朝刊一面トップで扱ったのに、朝日は担当記者の連絡ミスによる特落ちとかで、夕刊一面左肩に載せた。)

天才と凡人

発明王エジソンは「天才とは九九%のバースピレーション(発汗)と一%のインスピレーション(靈感)だ」と言った。まさに努力のたまもの相違ない。けれどもわずか一%でもひらめきがあれば天才にはなれない。もつとも、私は成功に至るには五〇%ぐらいの幸運が作用していると思う。今回のノーベル賞のお二人を見てその感を強くする。若いときから秀才で突っ走る必要はない。基礎を固めておけばいつか花開く日が来る。これに関連して一つ提案がある。

今、小・中・高では教科を完全に理解できる割合は七・五・三だそう。小学校でわからないまま中学校に進んだ三割にさらに二割が加わり、それが高校で七割に達するのは避けられない。日本では長幼の序、先輩後輩の関係が強いために本人も親も学年を遅らせることを極度に嫌う。しかし、何かの加減で進度が後れた場合にもう一年同じところを学習すれば、その後はむしろ順調に進行し、長い人生ではかえって得をする。私の友人にも中学時代に留年したものの浪人せず有名大学に入り、社会的にも成功した者が何人もいる。早い段階の空白のまま、毎日毎日、来る年も次の年も教室で時間を過ごさざるをえない子供の苦痛はいかばかりであろうか。これは人格形成にも影響する。エジソンは落ちこぼれだったというし、アインシュタインだって高校までは目立った存在ではなかつた。大器は晩成だ。

上井草スポーツセンターを舞台に、ストラックアウトやキックターゲットなどのスポーツに気軽に参加できる

「すぎなみプレススポーツデビュー」を開催します。事前の参加申込は不用です。

日時：平成15年2月16日(日)午前9時～午後1時 会場：上井草スポーツセンター

問い合わせ先：社会教育スポーツ課社会体育係

わたしたちの先生自慢

子どもたちが感動できる授業を！

東田小学校 みた ひろき ほりべ はるな もとなが あきお 三田 大樹先生・堀部 春菜先生・本永 安芸夫先生

様々な工夫あふれる学習を展開する杉並の先生を紹介している「わたしたちの先生自慢」。

東田小学校は創意工夫に満ちた生活科、総合的な学習の時間を実践しています。そのなかで、3年生はまちを知る学習を行い、その成果をアニメにし、「東田フェスタ」で保護者や地域の方々に発表しました。より活気ある授業をとアイデアを出し合い、子どもたちとともにいきいきした授業をつくりあげた担任の三田先生、堀部先生、そして図工の本永先生を今号ではご紹介しします。

3人のチームワークで

「すぎ丸にのって未来のまちレシピ！」これが3年生が製作し、発表したアニメのタイトルです。「アニメはあくまでも発信方法で、子どもたちにはまちを知ってもらいたかった。」3人の先生は口を揃えて言います。この目的を忘れることなく、先生たちは熱心に打ち合わせを繰り返しました。

子どもたちがまちを身近に感じることができるよう、南北バス「すぎ丸」を学習の素材に取り入れたり、まちづくりに携わっている区の職員を授業に招いたり、この取り組みには、子どもたちの興味を高める工夫がたくさん見られます。

三田先生は新しいこと、旬なことを授業に取り入れるのがとても上手な先生、堀部先生は教員1年目、フレッシュな感性で子どもたちを見つめる先生、本永先生は子どもたちをびっくり、そして楽しい気分させるのが得意な先生です。タイプの異



左から本永先生、三田先生、堀部先生

なる3人の先生のアイデアが結集し、3年生の魅力あふれる授業が行われたのです。

やったぞ！うれしい！の気持ちを大切に

「子どもたちが楽しく活動するためには、自分たちもいきいきしていないとだめですね。」と三田先生は話してくれました。アニメの製作など、自分たちも楽しめる新しいものを授業にどんどん導入していくことが、先生たちの「いきいき」の秘訣のようです。

そして「いきいき」が子どもたちにも伝わり、授業の中で感動する気持ちを子どもたちに与えています。今回のアニメの発表を通して、3年生は「やったぞ！」という達成感と自分を発信することの大切さを体験しました。

そして「いきいき」が子どもたちにも伝わり、授業の中で感動する気持ちを子どもたちに与えています。今回のアニメの発表を通して、3年生は「やったぞ！」という達成感と自分を発信することの大切さを体験しました。



「東田フェスタ」での発表。教室が「すぎ丸」に大変身しました。

先生まだまだ募集！

皆さんの学校の先生を紹介してください。部活動などで生徒といっしょにがんばっている先生、工夫を凝らした授業を展開している先生など…。自薦、他薦は問いません。「わたしたちの先生自慢」で先生のすてきなところを自慢してみませんか？

問い合わせ先・送付先：庶務課



学校給食調理業務の民間委託の成果をお知らせします。

区は、現在、区民の皆さんの期待に応え、新たなサービスを展開していくために、「スマートすぎなみ計画」に基づき、全庁をあげて行財政改革に取り組んでいます。

教育委員会においても、行財政改革の - つとして、平成13年9月から、学校給食調理業務の民間委託を順次開始し、業務の効率的な運営による経費の節減を図ってきました。現在、小学校3校、中学校4校で民間委託を実施しています。民間委託による主な成果は、次のとおりです。

平成13年度の経費節減効果

委託を実施しなかったと仮定した場合の人員費（平成12年度決算値による1校あたり平均人員費×実施校数）と委託経費を比較し、節減額を算出しました。

その結果、3校で53,893千円（1校あたり17,965千円）の経費を節減することができました。こうした改革により得られた効果の一部は、杉並の教育の改善・充実に役立てていく予定です。

その他

1回に使用できる食器の点数増加や箸とスプーン等の併用により食べやすくなったこと、おかずの組合せが豊富になったことなどで、児童・生徒から好評を得ています。

また、委託実施校ごとに、学校関係者や保護者、受託会社などからなる「学校給食運営協議会」が設置され、保護者や児童・生徒の意見も反映させながら、おいしい給食づくりが進められています。

今後も、安全でおいしい学校給食の提供に取り組んでまいりますので、区民の皆さんのご理解とご協力をお願いします。

教育委員会の動き

平成14年9月～11月

【教育委員会開催状況】

- 定例会 5回
- 臨時会 0回
- 議案 6件（全議案可決）
- 陳情審査 1件（趣旨採択）
- 報告事項 20件
- 学校訪問 2校
（杉並第八小学校、高円寺中学校）

【主な案件】

- は審議・は報告事項
- 杉並区立社会教育会館の一部廃止について
- 杉並区教育委員会職員服務監察の基本方針について
- 安本委員の発言
- 「昨年の教科書採択時における、私の言葉足らずで軽率な発言により、多くの方にご迷惑、ご心配をおかけいたしましたことを、深く反省しお詫び申し上げます。」（抜粋）
- 杉並区立教育機関環境方針等について
- 新たな学校給食用個人盆の導入について
- 杉並区中学校対抗駅伝大会＆ファミリー駅伝大会開催概要
- フレッシュ補助教員・学生ボランティアの配置について